

青木ヶ原樹海&十二ヶ岳山行報告

【山行日】2021年 5月 14~15日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 6:30

【費 用】マイカー1台 : 10,800円

【メンバー】CL:鈴木 植竹、石澤、関、廣瀬、渡辺

14日 曇り時々晴れ 富士山精進湖登山口から青木ヶ原樹海を登り、富士風穴から軽水林道までピストンで登り、車で紅葉台まで登り雄大な富士山を堪能する。

岩舟支所P6:30=富士山精進湖登山口 P8:45/9:05~県道 71 号線 10:30~富士風穴 10:40/10:55~

軽水林道出合 12:25/12:55~県道 71 号線 13:55/14:00~富士山精進湖P15:10=紅葉台 15:30/15:50=
カトリア荘 16:10

毎年恒例の富士五湖合宿、今年は富士山の眺望が抜群の高川山と去年雨で中止となった十二ヶ岳を計画した。ところが今年も天気が悪く、中央道の犬伏ICでは雨が降っていた。皆さんの同意を得て、青



木ヶ原樹海を歩くことに変更し精進湖登山口へ向かった。富士山精進湖登山口近くの旧道へ車を止め、出発の準備を整えストレッチを行って出発する。すぐに富士山精進湖登山口の案内板があり、舗装された広い道路を緩やかに登って行く。いよいよ青木ヶ原樹海に入って行き、苔むして鬱蒼とした樹海の中を登って行く。誰かが「青木ヶ原樹海は迷ったら磁石が効かないし、出られなくなるんだよね。」と心配そうにつぶやいていた。確かに鬱蒼とした樹海はいかにも迷いそうだが、登山道は広くしっかりつけられており迷いようがない道である。しばらく舗装道を歩くと土の登山道

になるが、道は広くしっかりした道でとても歩き易い。全員初めての青木ヶ原樹海歩きは新鮮で、とても楽しそうに歩いて行く。やがて乾徳道場への分岐があり、右に曲がり山の西斜面を登るようになる。やがて樹海が切れて明るくなり、えぐれた登山道を登るようになる。再び樹林の道を登るようになるが、ここからは富士山原生林と標識に書いてあり青木ヶ原樹海と区別されていた。富士山原始林の標識をいくつか見ながら登ると階段があり、県道富士宮鳴沢線に出る。県道を左に少し行くと、駐車スペースがあり車が数台



止まっていた。小休止してリンゴや菓子をいただき、案内板を読むと付近に風穴がいくつかあり、ガイドが案内しているようである。我々はすぐ先の車両進入禁止ゲート脇を抜けて、上を目指して登って行く。10分ほど歩くと「富士風穴」の大きな石柱が建ち、右に風穴への道を進むと大きくぼんだ風穴が見える。丁度ガイドに案内された女性が2人戻ってきて、青いつなぎ服にヘルメットを着けていた。我々も溶岩の崖を降りて、風穴の入口まで行き覗いてみる。風穴から冷たい風が吹き出していて、長袖の服でも寒いくらいの気温である。

中に入るには環境省の許可をもらい、ガイドさんの案内が無いと入れない。窪地に降りて入口を覗いただけで満足し、崖を登って登山道に戻った。この付近はいくつかの風穴が集中し、ガイドの案内で風穴を探検するのも楽しそうである。ここから少し進むと樹相が変わり、大室山の裾野に広がるブナの原生林が現れる。富士山噴火の際に大室山によって溶岩流が止められ、この付近一帯の原生林が残ったとの事である。登山道は大室山の東側へ大きく曲がり、その先で大きく右に曲がると真っ直ぐな道になる。両側に石垣が組まれ、土を盛って整備された広い直線の道が原始林の中に延びている。道の両側は大きな溶岩がゴロゴロしており、整備した道が無いと歩くのは困難だったに違いない。途中で十字路が現れるが、ここを直進して進むと車止めの柵が現れ林道軽水線に到着する。時計を見ると12時25分であり、当初の天神峠までを諦めここで昼食とする。林道を横切り少し先の広場でランチタイムとし、うどんを作っておにぎりやパンをいただく。ここまで7.8Km、標高差340mを歩き、腹ペコの体には最高の御馳走だった。ランチが済んだら下山開始し、往路を下って精進湖を目指す。下りはゆるやかな傾斜の下りで、危険箇所も無く軽快に下って行く。県道富士宮鳴沢線の駐車スペースで休憩し、そこからも快調に下り登山口の駐車スペースに着いた。時間が有るので秀麗な富士山を見に、車で紅葉台まで行くことにする。国道139号線を紅葉



台入口まで戻り、ここから左折して未舗装の狭い道を登って行く。紅葉台に着くと雪化粧した富士山が出迎えてくれ、思わず皆さんから「うわ～素敵」と歓声上がる。秀麗な富士山をバックに記念写真を撮り、それぞれスマホに富士山を収めたら宿へと向かう。ここから今宵の宿「カトリア荘」まではほんのわずかで着く。カトリア荘に着き女将と1年ぶりの再会を喜び合い、部屋に案内される。本日は我々だけの貸切で、自由に使ってくださいと言われ大きい部屋に決めた。交代で風呂に入ったら反省会が始まり、ビールやお酒で乾杯し楽しい時間を過ごした。夕食の準備が出来て1階の食堂に移動し、いつもの美味しい夕食を楽しくいただいた。明日の予定を聞くと大石公園に行きたいというので、6時に出かけて7時に朝食と伝え部屋に戻って床に就いた。

台入口まで戻り、ここから左折して未舗装の狭い道を登って行く。紅葉台に着くと雪化粧した富士山が出迎えてくれ、思わず皆さんから「うわ～素敵」と歓声上がる。秀麗な富士山をバックに記念写真を撮り、それぞれスマホに富士山を収めたら宿へと向かう。ここから今宵の宿「カトリア荘」まではほんのわずかで着く。カトリア荘に着き女将と1年ぶりの再会を喜び合い、部屋に案内される。本日は我々だけの貸切で、自由に使ってくださいと言われ大きい部屋に決めた。交代で風呂に入ったら反省会が始まり、ビールやお酒で乾杯し楽しい時間を過ごした。夕食の準備が出来て1階の食堂に移動し、いつもの美味しい夕食を楽しくいただいた。明日の予定を聞くと大石公園に行きたいというので、6時に出かけて7時に朝食と伝え部屋に戻って床に就いた。

15日 曇り 毛無山登山口P から十二ヶ岳に登り、険しいクサリ場を下ってキレットを吊り橋で渡り十一ヶ岳から一ヶ岳まで縦走して毛無山へ。
カトリア荘 7:50＝毛無山登山口 P8:00/8:15～
桑留美分岐 9:00～十二ヶ岳 11:05/11:20～八ヶ岳
12:20/12:45～毛無山 13:20/13:30～毛無山登山口
P14:30/14:40＝岩舟支所 P18:05

朝4時に起きて登山の準備を整え、車に乗って大石公園へ朝の散歩に向かう。途中、西湖畔から富士山の山頂部が望め、河口湖まで行けば雄大な富士山を見ることが出来ると期待した。ところが河口湖に出ると雲が厚くなり、富士山の姿は全く見ることが出来ない。



大石公園に着き駐車場に車を止め、湖畔の花壇に出るが富士山は見えなかった。湖畔のお花畑を散策するが、コロナのせいか花が少なく以前とは違った風景になっていた。唯一ネモフィラの花壇だけ綺麗



に咲いていて、ネモフィラと河口湖をバックに記念写真を撮り駐車場に戻って宿へ向かう。7時前に宿に戻り、出来立ての朝食をいただく。炊き立てのご飯に熱々の味噌汁が最高で、おかずも品数が多く美味しくいただいた。出発の準備を整えたら女将に挨拶し、車に乗り込み登山口に向かう。

去年調べておいた駐車場に着くとほぼ満車で、奥の空いていたスペースに車を止める。準備を整えストレッチを行なったら出発するが、我輩は腰を痛めガスボンベや食器を持ってもらう。駐車場から舗装道路を西に向かって進み、集落を抜けたら右の山道に入り、昔の桑留美への生活道をたどって行く。

山腹の南側をトラバースして付けられた道を、40分程歩くと桑留美登山口からの道と合さる。小休止して衣服調整と水分補給を行う。ここからは尾根を登るようになり、松交じりの自然林の道を緩やかに登って行く。1216mノピークを過ぎると緩やかに下り、小沢を渡って東側の尾根に取付く。植林帯の道を九十九折れに登って行くが、段々傾斜がキツくなる。尾根の西側に地蔵が祀られた場所を過ぎると植生が変わり、自然林の道となりトウゴクミツバツツジが美しい。この先から傾斜がさらにきつくなり、ザレた急坂や岩場の急坂をロープを頼りに登るようになる。後続が遅れ始め、途中で待ちながら高度を上げて行く。見晴が良い岩場の上で小休止し、西湖の展望を楽しむが富士山は見えない。ここからも岩場のトラバースや、岩場の急登が連続し、登り上がると平坦になり分岐に出る。皆さん疲れた様子なので「これからが本場だよ、ここから十一ヶ岳への下りと登りが今日一番の難所だからね！」とハツパ掛け十二ヶ岳に向かう。5分程登ると十二ヶ岳山頂に着き、狭い山頂に2つの社が祀られている。西側の露岩に立つと展望が良く、西湖や鬼ヶ岳など見渡せるが富士山は相変わらず雲の中に隠れていた。



大休止し夏ミカンや菓子などをいただき、展望を楽しみながら疲れた体を休める。分岐まで戻り、左に十一ヶ岳に向かって降りて行く。想像以上の難所で、標高差150mの垂直な岩場を何本も連続するクサリを頼りに下って行く。U竹さんの一歩が出せず、なかなか降りられない。体が小さいのでスタンスが確認できず、降りられないという。皆で足の置き場を指示し、一步一步ゆっくりと下って行く。一つの鎖場をクリアすると次のクサリ場も足が止まり、皆で励ましながら時間を掛けて下って行く。崖の両側にはイワカガミの花が群生しとても綺麗で励まされる。かなり時間が掛かったが何とかキレット

まで下って来た。すると十一ヶ岳から下って来たグループが、キレットの吊り橋を渡るのに苦戦している。上から見ていると短い吊り橋でそれほど難しくは見えないのだが…。

ようやく3人が渡り切ったが、かなり待たされた。渡って見ると難しさが理解できた。橋の底板がステンレス製で弓なりに大きく反っていて、靴が滑るため最初の一步が踏み出せないのである。十二ヶ岳側



からは反りが緩く難しくないが、反対側からは反りがきつく最初の一步が滑るため怖いのである。狭くて超揺れるので、我々も落ちないように慎重に渡る。渡り切ったらルンゼ状の崖をクサリを頼りに登るが、飛び切りのご褒美が待っていた。コイワサクラの可憐な花が出迎えてくれたのである。ピンクの妖精のような花が、崖のあちこちに咲いている。花に癒されながら60mの崖を登りきり、十一ヶ岳山頂に着く。ここからもまだまだ気が抜けない。すぐに十ヶ岳への下りが待っており、クサリとロープを使って降りて行く。進むにつれ下る標高差は短くなり、九ヶ

岳を越えると岩場も短くなる。時間は予定よりかなりオーバーし、八ヶ岳山頂で昼食を食べることにする。ミソラーメンを作り、パンやチャーシューと一緒に美味しくいただいた。お腹が満たされたら元気が出て、七ヶ岳・六ヶ岳と一ヶ岳まで下り、最後の登りを登ると毛無山山頂に着く。ここまで来れば一安心で、広い山頂で小休止しゼリーや菓子をいただく。皆さん難所をクリア出来た達成感で、笑顔で美味しそうに食べていた。記念写真を撮ったら下山開始し、南側の斜面を九十九折れに下って行く。下りの道は危険箇所が無く、皆さん軽快に下って行く。松やヒノキ混じりの雑木林の道を下り、杉の植林帯を下るようになると右に下り墓地に出る。墓地を右に進むと舗装道に出て、間もなく往路の舗装道に出る。ここを左に進むと駐車場に着き、靴を履き替えたらず路につく。河口湖畔の道の駅「かつやま」に寄ってトイレを済ませ、河口湖ICから中央道に入り岩舟支所に向かう。途中、上野原IC付近から渋滞があったが、大きな渋滞は無く予定通り岩舟支所に帰着した。

